

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-133	14-322	慶應義塾大学
<b>題名(原題/訳)</b>		
A text message alcohol intervention for young adult emergency department patients: a randomized clinical trial. 救急治療部での若年成人患者のためのテキスト・メッセージによるアルコール介入:無作為臨床試験。		
<b>執筆者</b>		
Suffoletto B, Kristan J, Callaway C, Kim KH, Chung T, Monti PM, Clark DB.		
<b>掲載誌</b>		
Ann Emerg Med. 2014 Dec;64(6):664-72.e4. doi: 10.1016/j.annemergmed.2014.06.010. Epub 2014 Jul 10.		
<b>キーワード</b>		PMID
救急医療、携帯電話、ショートメッセージサービス(SMS)、		25017822
<b>要旨</b>		
<p>研究目的:</p> <p>救急治療部(ED)での日和見主義的な短期アルコール介入は、若年成人飲用者で危険なアルコール摂取を減らすことに効果的であるが、しばしば利用できない資源を必要とする。携帯電話のテキスト・メッセージ発信(ショートメッセージ・サービス[SMS])は若い成人患者に行動サポートを環境を維持しつつ加えることができが、その有効性はわかっていない。我々は、危険な飲酒をする若年成人へ新しい SMS を配送する介入の効果を調べた無作為対照臨床試験の 3 ヶ月の転帰データを報告する。</p> <p>方法: 我々は、過去のスクリーニングにおいて危険なアルコール摂取が陽性であると判断された 765 例の若年成人 ED 患者を次の 3 つの群にランダム化した:SMS 評価+feedback (SA+F) 介入群 (n=384); 12 週の間、各木曜日にと日曜日に SMS を通して飲酒関連の質問と受信したリアルタイム・フィードバックに応じるよう依頼された。SMS 評価 (SA) 群 (N=196); 各日曜日にアルコール消費質問に返答するよう依頼されたが、いかなるフィードバックも受けなかった。対照群 (n=185); SMS に全く参加しなかった主要アウトカムは自己申告によるビンジ(大量)飲みをした日数、過去 30 日での飲んだ日の飲酒の量が Web ベースのスケジュールによって follow-back する方法で集められ、回帰モデルで分析した。第2のアウトカムは、12 回の週末において、週末のビンジ(大量)飲みの参加の比率と飲んでいる場合の酒のデータが、SMS によって集められた。</p> <p>結果: Web ベースのデータで、SA+F 群(-0.51[95%信頼区間{CI}-0.10~-0.95])で開始から 3 ヶ月まで自己申告によるビンジ飲みの日数の減少があった。一方、SA 群(0.90[95%CI 0.23~1.6])と対照群(0.41[95%CI-0.20~1.0])では増加していた。SA+F 群(-0.31[95%CI-0.07~-0.55])では開始から 3 ヶ月の間に自己申告の飲物の数の減少があった。一方、SA 群(0.10[95%CI-0.27~0.47])と対照群(0.39[95%CI 0.06~0.72])では増加が観察された。SMS データで、SA+F 群(30.5%[95%CI 25%~36%])は 12 週の間週末の大騒ぎへの参加が SA 群(47.7%[95%CI 40%~56%])に比べて少なかった。SA+F 群(3.2[95%CI 2.6~3.7])で 12 週の間週末の平均飲酒量も SA 群(4.8[95%CI 4.0~5.6])に比べて少なかった。</p> <p>結論: テキスト・メッセージ介入は、ED 退院の後危険な飲酒若年成人において、自己申告によるビンジ飲みの回数と一回に消費するアルコール量を若干減少させることができる。</p>		